

平成16年10月期 第二級陸上特殊無線技士 試験問題

法規 12問 } 24 問 1 時間
無線工学 12問

法 規

〔1〕 免許人が無線設備の設置場所を変更しようとするときは、どのようにしなければならないか、次のうちから選べ。

1. 直ちにその旨を報告する。
2. 直ちにその旨を届け出る。
3. あらかじめ許可を受ける。
4. あらかじめ指示を受ける。

〔2〕 免許人が識別信号（呼出符号、呼出名称等をいう。）の指定の変更を受けようとするときは、どのようにしなければならないか、次のうちから選べ。

1. その旨を申請する。
2. その旨を届け出る。
3. あらかじめ指示を受ける。
4. 免許状を提出し、訂正を受ける。

〔3〕 「F3E」の記号をもって表示される電波の型式は、次のどれか。

1. 無変調パルス列・デジタル信号である2以上のチャネルのもの・データ伝送
2. 周波数変調・デジタル信号である単一チャネルのもの・ファクシミリ
3. 全搬送波による両側波帯・アナログ信号である単一チャネルのもの・電話
4. 周波数変調・アナログ信号である単一チャネルのもの・電話

〔4〕 無線従事者は、その業務に従事しているときは、免許証をどのようにしていなければならないか、次のうちから選べ。

1. 通信室内の見やすい箇所に掲げる。
2. 通信室内に保管する。
3. 携帯する。
4. 無線局に備え付ける。

〔5〕 無線従事者が免許証を失って再交付を受けた後、失った免許証を発見したときにとらなければならない措置は、次のどれか。

1. 発見した日から10日以内に再交付を受けた免許証を返納する。
2. 発見した日から10日以内に発見した免許証を返納する。
3. 発見した日から10日以内にその旨を届け出る。
4. 発見した免許証を速やかに廃棄する。

〔6〕 第二級陸上特殊無線技士の資格を有する者が行うことができる無線設備の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作は、陸上の無線局で人工衛星局の中継により無線通信を行うものの多重無線設備の場合、その最大の空中線電力は、次のどれか。

1. 50 ワット
2. 30 ワット
3. 20 ワット
4. 10 ワット

法

〔7〕 非常の場合の無線通信において、無線電話により連絡を設定するための呼出し又は応答は、次のどれによって行うことになっているか。

1. 呼出事項に「非常」3 回を前置する。
2. 呼出事項に「非常」1 回を前置する。
3. 呼出事項の次に「非常」2 回を送信する。
4. 呼出事項の次に「非常」3 回を送信する。

〔8〕 免許人が無線局の運用許容時間、周波数又は空中線電力の制限を受けることがある場合は、次のどれか。

1. 電波法に基づく命令に違反したとき。
2. 無線局の運用を引き続き6 か月以上休止したとき。
3. 不正な手段により無線設備の設置場所の変更の許可を受けたとき。
4. 不正な手段により周波数の指定の変更を行わせたとき。

〔9〕 免許人は、無線局の検査の結果について指示を受け相当な措置をしたときは、その措置の内容をどのようにしなければならぬか、次のうちから選べ。

1. 直ちに届け出る。
2. 無線業務日誌に記載しておく。
3. 無線検査簿に記載するとともに報告する。
4. 適宜の用紙に記載し無線検査簿に添付しておく。

規

〔10〕 無線従事者が総務大臣から3か月以内の期間を定めてその業務に従事することを停止されることがある場合は、次のどれか。

1. 放送法又は電気通信事業法に違反したとき。
2. 無線局の運用を休止したとき。
3. 電波法に違反したとき。
4. 免許証を失ったとき。

〔11〕 無線局が臨時に電波の発射の停止を命ぜられることがある場合は、次のどれか。

1. 免許状に記載された空中線電力の範囲を超えて運用しているとき。
2. 発射する電波の質が総務省令で定めるものに適合していないと認められるとき。
3. 発射する電波が他の無線局の通信に混信を与えているとき。
4. 必要のない無線通信を行っているとき。

〔12〕 基地局の無線業務日誌に記載する時刻は、次のどれによらなければならないか。

1. 協定世界時。ただし、これによることが不便である場合は、中央標準時
2. 協定世界時
3. 中央標準時又は協定世界時
4. 中央標準時